



第10回 遠軽IC道の駅検討協議会 議事概要

平成29年3月29日(水) 午後1:00

遠軽町役場 3階 大会議室

1. 開会

- 佐々木町長挨拶

- ・第10回の検討協議会ということで、施設の形も大分まとまり、本日は設計図や管理運営方針についての協議をお願いしたい。

先般、遠軽瀬戸瀬ICが開通し、イベントや記念式典が行われ、国会議員や管内の首長の参加も多数あり、ウォーキングイベントにもたくさんの方に参加いただいた。開通後は1日約4千台通過していると聞いており、開通する前に比べて白滝～丸瀬布間の交通量も2割増とのことである。さらに遠軽ICまで延びてくれば、益々交通量が増えることとなり、2環状8放射の考え方では北海道が大きく変わってくるのではないかと思う。

この道の駅は、遠軽町はもちろん、遠紋地域に大きな貢献をするような施設となるよう、委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

2. 話題

(1) 報告

- 前回協議会の結果について 【参考資料1】

(事務局説明)

- ・主な内容については、整備の全体のスケジュールについて、各部会の進捗状況（産業・食部会での出店・出品の基本ルールの協議状況、体験部会での体験プログラムの協議状況、今後情報発信部会を立ち上げ）を報告した。また、施設の特徴を整理した中で、さまざまな“つながり”を生み出すことを目的とし、メインターゲットとして「ファミリー層」を提案し、その中で、目標とする滞在時間の設定や、管理運営側の考え方について統一を図り、委員の皆様にご承認を得たところである。その他の詳細についてはお目通しいただきたい。

- 地域拠点施設準備室の設置について 【参考資料2】

(事務局説明)

- ・広報えんがる4月号に掲載される原稿であり、第9回検討協議会においても議論があった「設立準備室」の件について、この4月より、これからのまちづくりの拠点施設となる当道の駅及び（仮称）えんがる町民センターの整備をさらに推進するために、「地域拠点施設準備室」を設置し、これまで企画課で行ってきた業務を「地域拠点施設準備室」が担当することについて、この場を借りてご報告申し上げます。また、委員の皆様においては、引き続き遠軽IC道の駅検討協議会の運営にご協力願いたい。



(2) 議題

● 遠軽IC道の駅実施設計図について 【資料1】

(事務局説明)

- ・ 駐車場については200台弱のスペースを確保している。
- ・ フロントスペースは各種イベント等に活用できるスペースとして考えている。
- ・ ゲレンデについては、施設2階と同じ高さに盛土をし、平場スペースを確保している。
- ・ 平成29年度は、大型車庫建設工事、建設にかかる土地の造成工事、既存倉庫の解体工事を予定している。
- ・ 24時間トイレのレイアウトを若干変更している。男子トイレの小便器のうち1台を手すり付、1台を児童用に替え、これに伴い手洗いの位置を変更している。
- ・ エレベーターについて、スキー場での事故等の際にストレッチャーの利用を考慮した規格に変更している。
- ・ フードコートに従業員用トイレを2か所から1か所にし、ゴミを一時的に保管するゴミ置き場を設ける。
- ・ 2階男子トイレ及び仮眠室のレイアウトを使い勝手が良いように変更している。
- ・ 軽食コーナーの配置と大きさの見直しを検討している。
- ・ 立面図について、今回は着色したものとなっている。
- ・ 立体パース図について、駐車場側からとゲレンデ側からのイメージとなっており、それぞれの雰囲気かわかるのではないかと。

(座長)

- ・ 設計図について、資料ではフラットになっているが、実際は道の駅が北見方面からは見えるが、瀬戸瀬方面からくる人には見えないということでしょうか。

(事務局)

- ・ 道路が低いので見えない。横に並んで少し建物が見えるくらい。北見方面からは、道の駅の正面が見える高さ。

● 遠軽IC道の駅を考える会の経過について 【資料2】

(事務局説明)

- ・ 1月以降の部会の進捗状況を示すものとなっている。

【産業・食部会について】

- ・ 第4回は平成29年5月開催を予定。
- ・ 出店・出品にあたっての基本ルールについて、前回質問のあった共益費の根拠を精査したものの提案する。



- ・メインターゲットの設定や体験部会の方向性について説明し、産業・食部会としてのより詳細な検討を進めていく。
- ・テナントの募集を含めた、詳細なスケジュールを提案する。

【体験部会について】

- ・第2回は、平成29年2月28日に行われ、今後の体験部会のスケジュール及びメインターゲット等について確認した。
- ・冬場のスキー場運営に支障が出ないことを最優先に考え、既存のゲレンデを有効利用した、豊かな自然の中で楽しめる体験プログラムと、荒天時を想定した施設内での体験プログラムについて検討した。
- ・大きく4つにゾーン分けした中で、「斜面」ではソリすべり、「平場」ではドッグラン、「山頂」では展望台、「施設内」では体験イベントという意見が多く、平成29年度はこれらを軸に、より詳細な検討を進めていく。
- ・第3回については、平成29年6月開催を予定し、主な体験プログラムに係る情報(集客人数・収支)を精査した資料を提案し、選定に向けた具体的な協議を行う。
- ・実際にロックバレースキー場の現場を視察し、各種体験プログラムを導入した場合を想定しながら検討を進める。
- ・現在、全国の道の駅やスキー場等で実施されている体験プログラムについて設備投資や維持管理費、それから集客人数と収益の情報についての調査を行っており、次回の体験部会でその結果を報告する予定。また、外部から講師を招いたり、実際に体験したりといったことも視野に入れながら、引き続き検討する。

【情報発信部会について】

- ・立ち上げに向けて、平成29年4月に平成28年度中に産業・食部会及び体験部会の方向性が定まった中で、事務局において、情報発信部会のあり方を検討する。
- ・メンバーについては、事務局を中心に、必要に応じて関係各所から参集を図っていく。
- ・第1回については、平成29年5月開催を予定。
- ・情報発信の役割や効果、危険性を含めた方向性の検討。
- ・オープンに向けたイベント等の企画及びスケジュールの調整。
- ・以後、産業・食部会及び体験部会と並行して、随時、開催していく。

● 遠軽IC道の駅管理運営方針について 【資料3】

(事務局説明)

- ・昨年10月に開催した第8回検討協議会において、概略を説明し、平成28年度中の策定を目指すこととしていた。この管理運営方針のまとめの策定にあたっては、検討協議会をはじめ考える会の各部会での、今後のより具体的な協議において、施設全体の特徴や管理運営上の共通認識として



整理した中で、全容を理解する必要があると考えたとともに、平成27年度に受けた提言書をベースに、平成28年度に1年かけて様々な検討をして決定した事項や、それを反映させた実施設計について広く周知する意味合いがある。今回、遠軽IC道の駅管理運営方針のまとめ（案）の平成29年3月現在ということで、検討協議会に提案し、確認いただくもの。

- ・ ベースとなる部分は第8回検討協議会でお知らせ済みであり、ここでは主な部分や修正点等について、改めて説明する。
- ・ 1P 「はじめに」については、5つの施設の特徴と、さまざまな“つながり”を生み出すことで、好循環がもたらされることを目的とする、ということについて説明。
- ・ 2P 「第1章施設の理念」については、平成27年度における検討協議会およびワークショップ等での協議における遠軽IC道の駅の基本的な考え方を踏襲した中身を説明。1.道の駅について、2.遠軽IC道の駅について、3.コンセプト、これらの内容については、第8回検討協議会でお知らせ済み。なお、2.遠軽IC道の駅については、平成29年3月19日に遠軽瀬戸瀬ICが開通したことに触れていることと、平成31年度以降のプレオープン、グランドオープンに向けてのスケジュールを追加している。
- ・ 3P 4.整備の考え方については、第9回の検討協議会で承認いただいたメインターゲットとして「ファミリー層」の利用を優先的に考え整備を進めていくということを追加している。なお、以下の（1）～（3）については、特段変更はなし。
- ・ 4P 第2章建築・空間の概要については、平成27年度～28年度にかけて行った基本設計を踏まえ、平成28年度の実施設計における施設概要を説明している。完成後においては、施設計画の基本的な概要を示すものとなる。
- ・ 5P 資料1で確認したパース図を掲載している。2.建築配置についても、資料1で確認いただいた、敷地全体の平面図を示している。
- ・ 6P 3.空間配慮・特徴については、第8回検討協議会でお知らせ済み。図面については（1）2つのレベルの活用では施設の断面図、（2）上下階の連続と一体化では施設の内観パース図ということでそれぞれイメージを掲載している。
- ・ 7P 4.環境に配慮した建築については、主な建築・設備計画について示すものであり、エネルギーや資源の有効利用について説明している。内容については第8回検討協議会でお知らせ済み。5.アクションサポートについては、（1）サポート機能ということで、各階の機能の充足やサービス提供に必要な様々な機能について紹介。
- ・ 8P （2）サイン計画については、施設利用者が認識しやすい各種サインを目指すということ、（3）家具・備品計画については、安全かつ安心して施設利用できるようなサポートについて説明している。なお、（1）～（3）の内容については第8回検討協議会でお知らせ済み。
- ・ 9P 6.フロア計画については、こちらも基本的には第8回検討協議会でお知らせ済み。
- ・ 10P （3）施設外観ということで、施設の各方向からの立面図を掲載している。
- ・ 11P 機能別施設構成については、（1）道の駅機能関連概要と（2）ロッジ機能関連概要ということで、1階と2階の各種機能について概要を掲載している。各階の細分化した概要について



は、基本的には第8回検討協議会でお知らせ済み。

- ・ 13P 第3章各機能の特徴と主な業務については、施設の運営管理方針を設定する上での、遠軽IC道の駅に導入する機能の特徴と、それを実現するために必要となる主な業務内容を説明している。1.道の駅機能については、(1)基本的な考え方において、緑の枠線内に、具体的なサービス等の検討の結果、追加事項として③その他サービスの提供ということで、無料公衆無線LAN(Wi-Fi)の提供、クレジットカード利用の対応、免税店制度導入の検討を追加している。
(2)トイレについての考え方は、特段変更なし。
- ・ 14P (3)直売・物販・食の提供の考え方について、ここでは、①地域との連携、直売・物販・飲食の連携、②農産物直売の魅力づくり、③物販ショップの魅力づくり、④飲食提供の魅力づくりということで、主に産業・食部会での協議事項を中心に整理したものを掲載している。
- ・ 16P (4)主な業務内容については、1階道の駅フロアで想定される主な業務について、掲載している。
- ・ 17P 2.ロジ機能については、(1)基本的な考え方、(2)ホール・レストスペース・軽食コーナーの考え方、18P(3)主な業務内容となり、基本的に大きな変更事項はなし。なお、各種体験プログラムについては、今後、更に体験部会においての体験プログラムの選定や運営に向けての検討を進める。
- ・ 19P 3.全体管理機能については、第8回検討協議会においては未確定の部分であったので、今回詳しく説明する。まず、(1)基本的な考え方については、第9回検討協議会において承認いただいた事項をベースに作成している。
緑色の枠線内では、一体的な管理における考え方を示している。
- ・ 20P (2)情報発信の考え方については、実際に利用されている方も多いと思うが、そういったサービスは不可欠であると考えている。(3)主な業務内容については、施設全体や関係機関等の管理運営、その他の事務等の業務が想定される。
- ・ 21P 第4章管理運営の基本的な考え方については、遠軽IC道の駅の管理運営の基本的な考え方を示すもので、施設全体の管理運営実施に向けての方針を示すもの。なお、管理運営が開始されてからは、現実の運用やその状況に対応しつつ、継続的に見直す必要があると考える。まず、1.管理運営の方法、主体については、(1)町民の参画、(2)管理運営主体についての考え方、(3)指定管理者制度の採用、(4)管理運営主体について、ということで掲載しているが、基本的には第8回検討協議会において説明済み。主な修正点としては、下から4行目、「予定している本施設の機能・役割を総合的に勘案し、供用開始に向けた各種準備の期間を想定した場合、施設建設中の早い段階で指定管理者を決定することが必要である」と考える。なお、本施設において2つの機能の融合や地域の多様な活動との連携といった施設の特異性から、マネジメント体制の構築が重要であり、現場を統括するいわゆる「道の駅長」またはそれに相当する役職(※以下、駅長等という。)の選任についても、その役割、あり方、勤務形態を含めた位置づけ等を整理し、早い段階での任用を目指し、公募も含め最善の方法を検討する。」としており、指定管理者の選定及びいわゆる道の駅長(駅長等)の選定について、方法や時期については明記していないが、平成29年度は



より具体的に検討していく。

- ・ 22P 2. 施設管理の基本的事項については、(1) 開館時間・開館日、(2) テナント等出店料金等、(3) 駐車場について、説明している。(1) 開館時間・開館日について、【各部門の開館時間、開館日】にそれぞれの基準となる開館時間及び開館日を掲載している。ロッジについては、基本的に冬はスキー場、夏は道の駅に準じた開館を想定している。(2) テナント等出店料金等について、内容としては、産業・食部会で検討した中で承認いただいている項目であるが、共益費など未確定の要素もある。フードコートについては、平成29年度中の募集開始を予定しているので、こちらは現段階の基本ルールということで、より詳細な募集要項、ルール及びスケジュールについては、別途、検討協議会において提案させていただきたい。
- ・ 23P (3) 駐車場については、資料1で説明したとおり。
- ・ 24P 3. 管理運営組織体制の考え方については、(1) 管理運営体制等、(2) 組織体系図、(3) 必要人員・収支想定について、説明している。
- ・ 25P (2) 組織体系図については、道の駅部門とスキー場部門があって、その上に統括する全体管理部門があり、それぞれの部門が先ほど説明した各機能を持ち、その機能については、考える会の意見を検討協議会で確認したものを反映させる、といった考え方を図式化したもの。最後に、(3) 必要人員・収支想定については、平成29年度により詳しい協議を進めた中で、整備していくことと考えている。

(座長)

- ・ 本体工事の発注はいつからか。

(事務局説明)

- ・ 平成29年度は大型車庫等の調整を考えており、平成29年度中にそちらを進め、平成30年度に現ロッジを解体し建物を進めていく。完成は平成31年の秋を目途に、プレオープンという形でスキー場のロッジ機能は平成31年シーズンから活用していきたい。

(座長)

- ・ 先ほどの説明では、テナント関係は平成29年度中に決めなければいけないということか。

(事務局説明)

- ・ 平成29年度中の募集開始を予定しており、そこから約1年かけて、まず町内の業者を中心に募集をかけて、不足が生じれば町外の事業者にも募集を進める予定としている。

(座長)

- ・ 全体管理責任者・駅長候補者はいつ頃決定するのか。

(事務局説明)

- ・ 平成29年度中に募集をかけて、平成30年度から着任する予定。

(座長)

- ・ それで間に合うのか。利益を出す企業としてやるためには、どういう準備が必要かが大切。駅長候補者も決まっていない段階でフードコートを募集してどうするのか。まずは駅長候補者・責任者を決めて核を詰めていかなければ。



(委員)

- ・道の駅長の考え方の方向性を示してほしい。また、3つの道の駅をどうやって連携するか、具体的にまるせっぷとしらたきの道の駅をどうケアするのが書いてない。準備室も作るかといっていたが、道の駅が完成したら終わりなのか、将来的にも室を設けてやるのか。筋が見えない。

(委員)

- ・会議を進める中で、何をいつまでにというスケジュールを毎回出してほしい。

(座長)

- ・アドバイザーに聞きたいが、今のスケジュールで進めて間に合うと思うか。オープンはできても、人を呼んで赤字を作らない仕組みでできるのに、間に合うかということ。

(アドバイザー)

- ・前回あった工程表が今回ないのはなぜか。アドバイザーとして誰にアドバイスしていいかわからない。主体がないまま、駅長候補者の雇用についての詳細が決まらない状況でこの1年経ってしまった。もう1年かけて平成30年春から人を入れるというのはちょっと遅い気もするが、その意味合いで準備室ができたのかなと思っている。その準備室が経営的な感覚も持って、もしかしたら駅長になるのは平成30年からかもしれないが、平成29年度からそれを見込んだ人だったりアドバイザーや連携する会社だったり、一緒に進めていくための室なのかなと解釈している。そうでなければ遅いのではないか。

(座長)

- ・一つの企業として成功させるためには、民間だと責任者を中心に儲かるようにやる。道の駅は利益を出す、出さないというのは結果であってニュアンスが違ってくる。平成29年度も同じようなことを11回、12回とやっても何もならない。実行部隊を作らないとならない。資料を作るための打合せ会ではない。

(委員)

- ・遠軽瀬戸瀬ICが開通してあまり日にちが経っていないが、丸瀬布も白滝も道の駅の入込は減っている。連携していくとは言っているが、いつ指定管理者を募集していつ決まるのかもわからない。それが決まってから、役場と連携して事前に進めていかなければ、座長が言うように急にやってくさいと言われてもできない。その中で丸瀬布・白滝を含めて3つの道の駅が連携して盛り立てていかなければならないのではないか。

(オブザーバー)

- ・管理運営方針は具体的に詰まっていると思うが、肝心要のところがないのではないか。成功する道の駅は、駅長がアクティブに動いているというのは間違いはない。全道の駅長にアンケートを行ったが、新しいものに関わっていこうとする方もいれば、後ろ向きな「人が来ない」という方もいる。駅長が大事だということはアンケートでよくわかった。
- ・応募要項の策定が平成29年10月までとなっているが、それでは遅いのではないか。これから運用の話となってくるのであれば、物事が決まっていけない。



(座長)

- ・ 駅長候補者がやりたいことで、図面も変わってくるのではないかな。

(事務局)

- ・ そのために以前から検討協議会を立ち上げてやってきた。例えば行政で建物を造って、さあやってくれということで失敗する事例もあるが、それをなくすためにここまで準備してきた。時間があるようでないが、そこは今まで皆さんで論議してきた部分なので分かっていると思う。早めに決めたいというのはわかるが、順番を踏んでいかなければならない部分もある。

(座長)

- ・ 指定管理は、議会の絡みがあるというのはわかる。駅長候補者というのは、名前は違っても実質的な責任者ということで方法はある。

(事務局)

- ・ 採用するとなれば、お金の話になり申し訳ないが、それをどこで見るかという問題がある。指定管理者は決まっていないが、当初からそれについては理解いただいております、最終的な詰めは時間がかかるかもしれないが、その方向で進めていきたい。

(委員)

- ・ 駅長候補者はどこが雇うのか、方向性を示さないと動きようがない。急に選べと振られても、ほとんどいない。

(事務局)

- ・ 募集の仕方は、これから会議でどういう人が良いのかということを考えていく。町だけで勝手に募集するというにはならない。そこに係る経費は町の方で負担することになると思うが、町で採用して、はいどうぞとはならないので、どのような形でやるのかを、この場で協議して進めていくように考えている。

(委員)

- ・ 駅長候補者については、この2~3か月の間に決めないか。そうでないと動いていかない。どこの道の駅でも、素晴らしい能力を持った駅長がいるからこそ、成功するという間違いのない事実がある。そういった核が決まれば、観光協会、商工会議所含めた形で「よし、それでやろう」という風にやっていける。今はどこが核になるかわからない。役場がリードしてパンフレットをもらって、そうですかとはならない。

(アドバイザー)

- ・ 準備室を作られたというのは、そういうメッセージだと思っている。ほかにも七飯でも同じように道の駅がスタンバイ状態にあり、やはり準備室みたいなものができて、そこに駅長候補者がいて、役場の方と一緒に作っていく体制であり、遠軽も早めに動くのが良いのではないかな。今日の新聞を読んで「動いたな」と思った。

(オブザーバー)

- ・ 準備室は大事だと思う。そこでどこまで議論が詰まるのか、オープンに議論がされるかということ。



(アドバイザー)

- ・皆さんと一緒にその候補者を決めて、一枚岩で囲んで走っていくイメージ。それは早い方が良いと思う。

(座長)

- ・今後はどのようなスケジュールとなるか。この次までに何を決めるか。骨の部分は決まってきた。

(事務局)

- ・第10回は建物の実施設計を見てもらった。今後は、運営の部分について、駅長候補者の募集等について決めていかなければならないと考えている。

(座長)

- ・この次までに運営方針を含めた中身を詰めていくということで良いか。

(事務局)

- ・そのような形になるかと思う。また、各委員からの意見もいただきながら、進めさせていただきたい。

(座長)

- ・いつ頃となるか。

(事務局)

- ・すぐにはならないが、8月頃あたりには開催したいと考えている。できれば早い時期に開催したいと思うが、調整して改めてご案内したい。

(座長)

- ・8月からまた同じ状況にならないように、早い時期から進めていきたい。スキー場の方は、別格で進めているので、引き続きお願いしたい。道の駅が決まらない事には進まない。

(委員)

- ・駅長の位置づけの人は最終的に指定管理者に入ることになるということであれば、もっと早く決めなければならない。

(座長)

- ・こういう管理運営方針を作っても、極端な話、実行する人がこれはダメだとなれば参考にしかならない。現実成功するためにはこうしなければダメなんだという風にやっつけていかなければならない。

(委員)

- ・しっかりパートナーを決めて、中身を精査していかなければいけない。

(座長)

- ・絶対に失敗できないとみんなが思っているから真剣だし、感情的にもなる。そろそろ核を決めていかなければならない。

(アドバイザー)

- ・これだけ町のために本当に大事なものを作ろうとしているのだから、既存の一つの団体に任せると言うよりは、みんなで出資して会社を作るのはどうか。力を合わせる仕組みの作り方があと思



う。町民から出資を募ったり。

- ・フラノマルシェの事務局長は信金から転職してきている。そういう風にみんなで商売を始めるのであれば、地元の信金なんかもバックについてもらわなければならない。

(オブザーバー)

- ・弟子屈の道の駅は住民を含めて新しい組織を立ち上げている。あそこも成功している道の駅であり、どういう運営方法でやってきたのかについても、具体的に確認する必要があるのではないか。

(アドバイザー)

- ・これまでやってきたことはものすごく意味がある。管理運営方針がないと駅長候補者の募集もできないので大事な部分。これができたので、準備室が中核となって、急いで経営人材を入れて進めていかなければならない。

(座長)

- ・準備室が4月からできて、観光協会、商工会議所含めた事務局で早急に運営できるような方針を作っていただきたい。そこが核になって動かないとどうしようもない。部会の経過については了解した。連休明けには方針を示していただきたい。
- ・遠軽瀬戸瀬ICが開通し、遠軽ICも目の前まできているという焦りもある。絶対に失敗はできないということで、一日も早く動いていきたい。

(事務局)

- ・そういったスケジュールで進めていきたい。